



紫雲児の心

想像力を働かせ、人を大事に (卒業式式辞より抜粋)

校長 五十嵐 めぐみ

3月4日(月)に実施した卒業式の式辞で、「大切にしてほしいこと」として、以下の2つの話をしましたので紹介します。卒業生だけでなく、在校生に向けても話した内容です。

大切にしてほしいことの1つ目は、「人を大事にすること」です。近い将来、多くの仕事を人工知能AIが担う社会になると言われています。しかし、どんなに技術が進歩しても、一番大事なのは人です。コロナ禍の中で、いろいろな人とかかわって活動することを制限されて過ごしてきたからこそ、皆さんは、直接人とかかわる良さを実感したはずです。これから先、皆さんの世界は広がり、より多様な人との交流があるでしょう。育ってきた環境や考え方は人により異なりますから、多くの人とうまくかかわっていくためには、自分とは異なる考え方を尊重することが大切です。自分の考えを押しつけるのではなく、相手の考え方・思いを尊重してかかわれば、良好な人間関係を築けます。そして、自分とは異なる考え方を受け入れ、自分の考えを広めることは、自分自身の成長にもつながります。

2つ目は、「自分に責任をもつこと」です。皆さんは今日まで、家族の愛情を受け、大切に守り育てられてきましたが、18歳という成人年齢まであと3年です。一人前の大人として社会的責任を果たすには、自分の言動とその結果に責任をもたなければなりません。そのために大切なのが「想像力」です。自分が発する言葉や行動の先にどんな結果が待っているかを予測・想像して、言葉や行動を選ぶのです。人は誰でも失敗します。しかし、失敗した時に、「他の人もやっている」「他の人に言われた」と責任転嫁する人は、自分の言動に責任をもっているとは言えず、周囲から信頼されることはありません。「失敗は成功のもと」と言えるのは、失敗した時に自分自身を振り返るからであり、失敗しても自分を振り返ることをせずに、言い訳をしたり他人のせいをしたりする人は、失敗を成功につなげることができず、人として成長するチャンスを失います。

今日で令和5年度の授業が終わります。1年間で生徒たちはたくさんの経験を通し、心も体も成長しました。成功体験は自信を高め、失敗は、次の成功への糧となりました。本日の終業式では、2月の学校だより巻頭言に掲載した「ウェル・ビーイング (Well-Being)」について話しました。身体的にも精神的にも社会的にも良好な状態を指し、「Happy」よりも持続的な幸福を指す「ウェル・ビーイング」を目指して、自分にできることを精一杯がんばってほしいと思います。失敗を恐れず前向きな気持ちで様々なことに挑戦し、たとえ失敗しても、その失敗から多くの学びを得て、人として成長し続けてほしいと願います。

今年度1年間、保護者・地域・関係者の皆様から紫雲寺中学校の教育活動に対し多大なるご支援・協力をいただきましたことに、心より感謝いたします。次年度もよろしく申し上げます。